弓削通信 フェニックス

2016.11.15 №77（通巻203）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

離島の危機をどう救うか

◆アニメから現実へ

「国家戦略特区」（地域を限定して思いきり規制緩和をして活性化を図る特区）に指定された今治市で、この十月二六日、ドローン（無線操縦の小型飛行体。ヘリコプターのように空中停止や垂直上昇、下降など自由自在）を使っての物資の輸送を行う実証実験が行われたそうだ。実験は大三島で行なわれ、菅良二今治市長が「過疎化が進む地域の買い物支援などでドローンを活用し、方向性を探ってほしい」と述べたという。

アニメ「魔女の宅急便」では、魔女の子キキが、ホーキにまたがり空を飛んで荷物を届けるアルバイトを始めるシーンがあった。キキがドローンに置き換わり、空想が現実になった。

しかし、実証実験の背景にある過疎化する島嶼部の利便性向上にしても、その根っこにある病んだ社会構造、経済体制をそのままに、いくら対症療法を積み上げても、はたして病は癒えるのか?、という疑問はぬぐえない。

◆情報隠しがされてないか

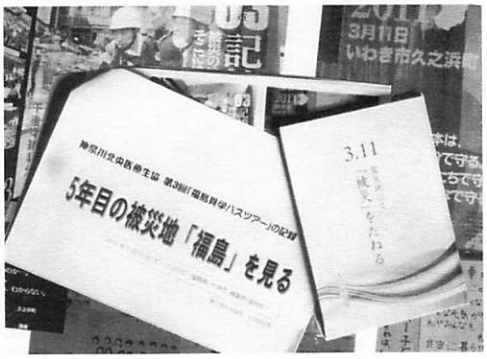
3・11と呼ばれる東北大震災。それに関わって発生した東電原発事故。5年経っても復興は進まないまま、避難生活者の生活が圧迫されている。原因が、中央政府と地方自治体の長の姑息さにあることは、様々な情報媒体、ことにインターネット上でのそれで明らかだ。なのに、国の行く末を決める選挙では、平均すれば有権者の半数以上が投票に行かない。

レポート

被災地からの報告　復興は遠し

現場の判断を許さぬ管理主義

過日、旧友から手紙が来て、神奈川北央医療生協が実施した福島見学バスツアーに、遠くブルネイに住む娘家族の子、つまり孫を連れて参加、その孫達の感想は、弟は「復興が進んでなくてがっかりした。これからの復興の早いことを祈っている。」長男のほうは「五年もたっているのに、先進国なのに復興してなくてびっくりした。政治家がチンタラしているのがわかった!。」と述べたそうだ。5年前の大震災のとき、ブルネイにいた娘家族のほうが放射能汚染の情報に騒ぎ、当時小、中学生の孫は夏休みになっても日本へ来なかったという。



◆政治不信ぬぐえぬ病んだ社会

震災地の現状と放射能汚染については、現地の議会議員（広野町）が発信する情報でも、町議会議員の殆どは無自覚で危機感は希薄、町長も避難家族の呼び戻しを急ぐばかりで、住民の健康面に関する危機意識がないと怒っている。

この通信にも時折登場する宮城県の本田義幾さん。氏は弓削道鏡を守る会の事務局長として多忙な合間に、自らも被災した東日本大震災の地を5年にわたりたずね歩き、レポートをされてきた。このたび、そのうちの被災地巡りの部分を小冊子にまとめられ、『3・11震災地にて「被災」をたねる』（たねるとは、すでに死語になっているかもしれない方言で、捜し物、どこかにまぎれこんでいるものを物色する、といった意味）として発行された。（頒価500円）そこには被災後の震災地の有様が様々な角度でたねられている。どれもが重いテーマながら、真の復興とは何かを考えさせられる内容。

しくじれば、原発事故の、あるいは巨大災害からの復興の実験地に終わるかもしれない福島。政府の本気度も疑わしく見えてしまう中にあって、一人でも多くの方々に読んでいただきたい小冊子だ。

震災に関しては、これも先日判決が出た東日本大震災の後で発生した津波で、石巻市大川小学校の生徒と教員たち84人が死亡・行方不明になり、その保護者たちが起こした裁判で、仙台地裁は保護者たちの訴えを認め、市と県に対し約14億円の損害賠償を命じた。

◆取り戻したい真の合理主義

なぜ津波という自然災害が裁判で争われ、一審判決が出るまでに5年も掛かったのか。

事件を、様々な角度から検証している方の情報がインターネットでは閲覧でき、そこでは結果的に市（県）の教育行政の硬直化が、現場での柔軟な対応をとれなかった因であると述べられている。

合理主義にもとづく教育を受けたはずなのに、いざとなれば合理的な判断や行動がとりにくいとは皮肉以外のなにものでもないが、身辺にも散見される。病む社会は闇にも通じる根の深いものであるように思えて仕方がない。

やよみ亭 出よう会

●地区のお年寄り達の交流会。毎月第2、3火曜日に開催。●12月は13日に「やよみ亭」、20日は「土生集所」で開催です。

きどぐち七十六

青木喜代子

夫がタバコをやめた。四〇年余り風邪を引いても吸い続けていたのに・・・。

若い頃、タバコの煙をくゆらせながら何かに没頭する夫の姿は素敵だと思った。その頃は受動喫煙なんて言葉は知らなんだ。もちろん囲りの方が害があるなんて最近知った事。おそろしや。

「ねぇ～止めたら?」「いんや」「絶対よくないって!」「一箱千円になったら止める。」と、訳のわからん事を言いながらスッパスッパ。

売る側もしたたかで一箱十円とか二十円とか小刻みに値上げしてくる。まるでぬるま湯のカエル状態にされている。

箱の横には健康に害が、吸いすぎに注意とか、こんなメッセージ書きながら売るんじゃねーよ。世の愛煙家よ、早く気がついておくれ。

遂に、「私が肺ガンで死んだらあなたのせいよ!」ときついことを言ってしまった。その頃から一箱づつのチョイ買いになり、ぼちぼち準備してるんかな?と。そして禁煙シールをはる事もなく、禁煙外来を受診するすることもなく禁煙となった。きっとザワザワとしたストレスもあっただろうに、夫の態度からは感じなかった。「僕は止めると言ったら止めます。硬い意志を持ってます。」と。

私の数々の暴言におこることもなく、とてもスマートにタバコと訣別したあなたは素敵で格好イイです。

さあきれいな空気を思い切り吸って、こじゃれたジジババめざしましょうや。

ねぇ～、浮いたタバコ代でどっか行く?

北海道の大地から 神田日勝 展
平成28年11月19日～29年1月15日

詳しくは（0848-23-2281）

弓削通信 ファニックス

2016.11.15 №77（通巻203）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

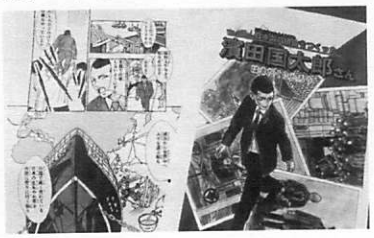
海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会（参加自由）

（毎月25日13時～。生名中央公民館解体および庁舎改修工事のため当分のあいだ月例会会場を生名開発センター２Ｆに変更します）

〈27〉

濱田國太郎の事績を紹介することに心血をそそいでこられた村上貢氏は、歴史家の常としてあらゆる事に興味を抱く方です。同郷の國太郎に関しては「日本海員組合を創った男・濱田國太郎」「しまなみ人物伝」の著書。ほかにも海事に関する郷土の先輩の事績を紹介する著書は多く、80代後半にしてなお矍鑠と様々なテーマに食指を動かしておられます。またこの濱田國太郎を顕彰する会の代表でもあられる。そうした中、國太郎のことを、より親しみやすく紹介する、として会のメンバー池田浩滋氏（尾道市在住）が、それをマンガ表現する役を引



き受けてくださり、企画から完成までの約半年を経てこのたび作品として結実しました。出版予定は12月1日です。

池田氏は30代前半、船乗りはおろか、労働運動とかには無縁の状況から漫画制作に関わることになり、資料を読み込み、現地踏査、ヒアリング等、およそ作家としてせねばならないことをこなし、かつ集中して製作にあたるため、本を発行をするNPOの活動拠点に泊まり込み一途に製作にあたっての完成でした。

タイトルは村上貢さんの著書の書名を拝借し「日本海員組合を創った男・濱田國太郎さん」。本文40ページ、A5版で2，000部の印刷。子どもから大人まで楽しめる作品です。頒価は500円。

ただし國太郎像設置に協力金を頂いた方々には謹呈をさせていただきます。只今ご購入予約を受け付けています。ぜひご予約ください。

議員活動録

ちほうまじっくカミジマンック

（43）上島町議会議員　平山和昭

首長多選を避け 風通しのよい 行政の実現を

本年十月二十三日投開票の任期満了にともなう首長及び議員選挙はこの町に大きな衝撃を与えた。

まず合併以来三期をつとめてきた現職町長が、挑戦者に敗北した。票差３１５票は決して小さな数ではない。そして第四期目の議員選挙は全町一区選挙となり、議員確保が危ぶまれた魚島地区から二名の議員が選ばれたこと。しかもその二名の得票は上位であった。

■全町一区議員選挙の始まり

筆者にとっては合併以来取り組んできた全町一区選挙が実現したものの、一番不利とされてきた魚島地区（魚島・高井神島人口１９７人。全人口７、２６７人。八月末データー）から堂々二名の議席を確保したことは、候補者の努力はもちろん、有権者の意識的な選択が、全町の中に落ちこぼれを生じさせないぞ、という気持ちの表れだと解釈できる。このことは、全町一区選挙でも候補者や有権者の意識が高ければ、議員を出せない地域は町には存在しないことの証明であり、当初魚島地区からは怨嗟の的であった全町一区制が間違いではなかったと、おおいに安堵した。改めて有権者の識見に敬意を表するものである。

言うまでもなく選挙は民主的な行政を支える根幹の仕組みだ。しかしまだ課題がないわけでもないだろう。それがどういうものであるかは、それぞれの有権者の胸に聞いていただくしかないが、筆者の選挙中の公約であった良識ある強い議会に建て直すことが現実味を帯びてきたことが喜しい。

■信じがたい議会軽視と硬直化

もともと議会と理事者は対立すべき関係ではなく、切磋琢磨して互いを高めあってゆく必要があるものだ。しかしこれまで様々な対立があったのは事実でその大きな原因に、理事者（町当局）による議会軽視があった。改善策を提案しても受けれないかたくなさが理事者にあった。

また選挙後の理事者の対応も議会軽視そのものであり、無責任。だとすれば、これまで指摘した事々が理事者には議会軽視と、思考の硬直化だとは認識されていなかったことになる。

その端的な例が、選挙後敗戦がきまった上村町長が、二十四日、幹部会を招集し、二十五日から登庁しない旨を職員に伝えた。こんな話は聞いたことがない。十一月六日の任期満了までには日数があり、月末には自ら取り込んだ大きなイベントも控えている。しかも万一重大事の発生した際、どのように危機管理をするかの内部決定事項も、二十六日まで議長（議会）にも伝えてこなかった。

町長不登庁の噂はたちまち町民間には広まり、議会は何をしているのかと叱責が議員に届く。

二十六日午後、副議長と議運委員長である筆者とが副町長を訪問、厳重に抗議をし、議会軽視かつ無責任ではないのかと善処を申し入れた。

■危機管理意識の希薄さが露呈

行政機構は淡々とシステマチックに動くのが原則だ。常日頃ほうれんそう（報告・連絡・相談）の実施を説いているにもかかわらず、このような事態が発生したことは、職場放棄とも受け取られかねない町長の行動とあいまって、行政の信用失墜につながると強く認識してほしい。政権交代で新体制になっても、これらは基本の基。二度と起きて欲しくない事だ。

■選挙は、終わればノーサイド

選挙が終われば立候補者も有権者も当選者も落選者もノーサイドというフランクな気持ちをもち、一丸となって町を守ってゆかねばならないのは当然のこと。ましてや有権者の選択に対してのあてつけがましいと見える態度は、有権者を侮辱するものでもある。恥ずかしいだけだ。

やよみ停【映画研究会】

11月15日（火）午後7時～

「三文役者」

●新藤兼人メガフォン。竹中直人と荻野目慶子ほかが、戦後の名脇役・殿山泰司を蘇らせる大傑作。2000年公開。

サウンド・ハウス

「親の覚悟」

村上清美

今からさかのぼること20年。このセカンド物語は、始まりました。私の家からは、それはそれはさまざまな音を生み出しています。そう、私の生業は音楽教室なのであります。

20年前と変わったのは、音を外にもらさないために二重窓にしたこと。以前より広い部屋にレッスン室を移したこと。

ラテン系の太鼓の数も増えたし、小さいお子様連れの親子さんにも対応するためです。

保護者である母ちゃん、いえママたちの感覚は変わった？はいな。それは大いにあります。お金にシビア・・・。

子育ての終わった同級生に言われました。

「音楽教室にお金をいっぱいかけたわ」「コンクールで金賞をとったらグランドピアノをあやうく先生に買わされそうになってさ。高3でやっとピアノを辞めさせることに成功したわよ」

おいおい、それは違うよ。教室にお金をかけたんではなくて、貴女のお嬢様にかけたんでしょ。

そう、楽器に限らず子供を育てるのは親の覚悟ってものが必要ですよね。

★今号から20年振りに再登場の村上清美さん。因島重井町で音楽教室主宰のかたわら、様々な自主イベントを実行中。よろしくお願いいたします。